

<http://www.broadbandschool.jp>

ブロードバンドスクール協会

NEWS

2008年

第11号

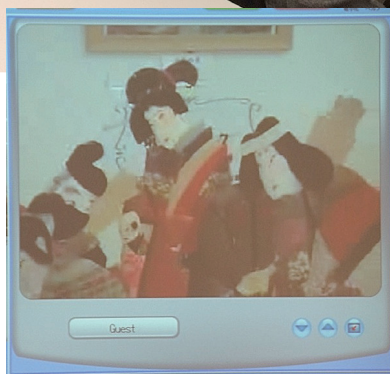
BBS

発行日：2008年6月1日 発行所：NPO 法人ブロードバンドスクール協会 / 〒113-0034 東京都文京区湯島 2-23-8 エリート・イン・清水坂 / 電話 03-3836-1377

生涯教育と地域の活性化を支援

NPO 法人ブロードバンドスクール協会は、手軽に使える情報通信技術 (ICT) やその活用ノウハウをご提供することにより、より質の高い教育を実現するためのお手伝いをしています。2002 年の発足以来、主として小学校を中心とした「学校教育」への支援を展開してきましたが、「生涯教育」とそこに密接に連携する「地域コミュニティ」の活性化についても、その重要性を強く認識し支援に力を入れてきています。

今回は、シニアの方々に心豊かな生活を楽しんでいただくために私たちが支援している活動の中から、いくつかのシーンを紹介します。



▲写真左の2枚：金沢からは、城森順子さん（本号2ページにも登場）が、金沢の雛祭りについて紹介しました。かごに入っているのは金沢の雛祭りを彩る砂糖菓子「金華糖」。写真右：松本からは、松本市立博物館学芸員の木下守さんが、江戸時代から伝わる「押し絵雛」を紹介しました。（写真は松本から金沢に送られてきた押し絵雛の画像）

3月4日、金沢市と松本市のシニアをテレビ会議システムで結んだ第3回アクティブシニアネットフォーラム「電腦ひな祭り」が開催されました。

同じ時代を生きてきた連帯感——地域に誇りを持ち、各地の仲間との交流をめざすシニアを支援

気はつらつとしたシニアの熱気に包まれました。

このフォーラムでは、双方のシニアが一時間にわたって両市に伝統的に伝わる雛祭りの人形や祝い方を紹介し、予定のプログラム終了後は、活発なフリートーキングに発展して雛祭りにふさわしい楽しいセッションが続きました。

ブロードバンドスクール協会は、アクティブシニアネットフォーラムの支援を第1回（東京 群馬県水上町）、第2回（東京 埼玉県本庄市）、そしてこの第3回（金沢市 松本市）と、ネットワーク接続支援などを通じてサポートしてきています。



▲俳句をメインテーマに行われた第2回アクティブシニアネットフォーラムのようす

日本全国のアクティブシニアを応援

ブロードバンドスクール協会は、シニアポータル「よつば倶楽部」(URLは下欄参照)の支援を行い、シニアネットを含む日本全国のアクティブシニアの応援をしています。その一例として、パソコンを活用して充実した人生を送ってきた先達たちにお話をうかがう対談のコーナー「アクティブシニア先達列伝」を紹介します。

アクティブシニア先達列伝・第2回



日本のシニアネットの草分け

メロウ倶楽部名誉会長中村克己さん (満90歳)

写真 (左から) 中村克己さん、大島友子さん、近藤則子さん

「メロウ倶楽部」という全国的なシニアのネットワークがあります。そのルーツは、パソコン通信のNIFTY SERVEにあった「メロウ・フォーラム」。このフォーラムの設立当初から会員をまとめてリードしてきた中村克己さん(満90歳)をメインゲストに、昨年から会員に加わった近藤則子さん(老テク研究会事務局長)にも加わっていただき、シニアのネットワーク創生期の思い出を語って

ただきました。(聞き手はマイク

ロソフト(株) 技術統括室の大島友子氏。その対談から一部を抜粋して紹介します)

中村 韓国とも交流しましたね。

近藤 一九九六年、中村さんが韓国のキム・ダエスさんを紹介してくださり、韓国の「元老坊」という高齢者のパソコンクラブの人たちと私たちの交流が始まりました。ちょうどその年はインターネットエクスポの年で、元老坊は「日本の高齢者」とのインターネット交流を公式行事にしたいというので、中村さんにも来ていただき、テレビ会議システムを介してキムさんとお会いしました。

中村 キムさんはお医者さんで、僕のメル友。そのとき初めて顔を見て、感激の初対面だったね。僕とキムさんは同い年で、彼は僕より一週間だけお兄さんなんだ。

近藤 その後、中村さんはキムさんに会いに行かれたんですね？

中村 会いに行ったりというよりも、元老坊が正式の発会式をやったの。マグナカルタ(大憲章)をこしらえて、読み上げたんです。

近藤 一九九四年頃、シニアのパソコン教室もやりましたね。

中村 某テレビ局から電話がかかってきてね、シニアのパソコン教室をこしらえたいから来て頂戴というの。赤羽にN.T.T.の研修施設があつて、そこを貸してもらって教室を始めることになった。当時は、パソコンのインストラクターとワープロのインストラクターの両方が必要だったんだよ。

大島

中村さんが講師を募集した

アクティブシニア先達列伝・第3回



「兼六園花便り」を毎週連載し続けて12年

兼六園研究会会員 城森順子さん (昭和14年生れ)

写真 (左から) 森本登志男さん、城森順子さん

歴史と伝統を誇る北陸の古都、金沢市。その金沢市の公式ホームページ「いいねっと金沢」に知る人ぞ知る「兼六園花便り」というコーナーがあります。ここには毎週毎週、兼六園の花の最新情報が美しい写真とともに紹介されてい

んですか？

中村 そうじゃない。僕は単なる看板になるのならいいよ、と引き受けた。マクドナルドのおじさん。

大島 ケンタッキーでは？

中村 あ、ケンタッキーか。あれでいいんだな？ときいたら、いい

ますが、そのレポーターは城森順子さんというシニアの植物愛好家です。城森さんは一九九六年から12年間にわたり毎週兼六園に通って植物たちを見つめ、撮影し、全国の兼六園ファン、花と植物のファンにレポートし続けてきました。その城森さんに、「花とパソコン」とともにすぐす心豊かな生活についてお聞きしました。

(聞き手はマイクロソフト市場開発部の森本登志男氏。その対談から一部を抜粋して紹介します)

森本 兼六園花便りは、何回(第何号)ですか？

城森 最新号で、六三三回になります。(二〇〇八年三月三日現在)

森本 六三三回ですか、すごいですね。

城森 兼六園は、何度来ても飽きないですね。毎週訪れるごとに少しずつ変わっていきますし、緑が多いのは心が休まりますでしょう。そろそろあの花が咲きそうだなと思って、その場所へ行くときのうきうき感、それがものすごく心身の健康にいいと思います。

というから、引き受けたんです。

近藤 中村さんは今でも、「メロウ倶楽部」の看板ですね。

大島 シニアの看板でもありません。日本のシニアの看板。

中村 何が看板かというと、年端が行つてるだけ(笑)。

森本 台風のと きなどにもらっしやるんですか？

城森 来ますけれども、いちばん困るのは風です。枝が揺れて花の写真が撮れないんです。それと雲が厚いときは写真が暗い感じになつて悩みます。椿の花に染みがあつたらレタッチするようなことはあるんですが、暗いところでは撮った写真はどうしようもないですね。そういうときは、仕方なくとんでもない写真を載せます(笑)

森本 今年の金沢の雪は、いかがでしたか？

城森 少なかつたですね。気温は低かつたんですが、雪はあまり降りませんでした。兼六園の雪景色を写真に写したかったんですが、毎週土曜日に来て雪景色を写したのは一回ぐらいでした。「根上がりの松」というのがあるんですが、雪が積もるととてもきれいなんですよ。私はそれが大好きで、雪が降ると行くんです。根っこに白い雪が載つて、横に枝が出ているところに白い雪が載つて、それはそれは姿がきれいなんです。